

はじめに

令和5年11月2日、第61回中・四国小学校体育研究大会（鳥取大会）を中・四国の多くの先生方のご協力のもと、通常の参加型大会として、米子市立就将小学校での公開授業、授業討議、県外・県内の提案発表を予定通り行うことができました。実際に授業を見て先生方と顔を合わせて意見交換できることの良さや、重要性を改めて実感することができました。

当日は、鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹 様、米子市教育委員会教育長 浦林 実様をはじめ、中四国小学校体育連盟の顧問・参与の皆様、中四国各県の会長様にも開会行事に参列いただき、心より感謝申し上げます。

「ともに学び 未来を創る 鳥取の体育～運動の楽しさに浸り 豊かに関わり合いながら 課題を追求する子供～」を3年間同じ大会主題とし、研究発表大会も実施してきました。その中で、鳥取県がビジョンを共有し、情報を交換し、役割分担して取り組んだのは、発表の目玉である「する・みる・支える・知る」の多様な関わりがわかる授業。体育や保健の授業に浸っている状態がわかる授業。準教科書「わたしたちの体育」や教科書「わたしたちの保健」の活用がわかる授業でした。会場校はもとより、実践発表者も何度も協議を重ね、鳥取の体育が提案したかったことを伝えられるよう、準備をしてきました。大会運営に携わったメンバーも、会場校である就将小学校の先生方や子供たちのことを第一に考えるとともに、参加いただく先生方にとっても、安心・便利・わかりやすくスムーズといったことに心を配りながら、大会を支えました。

小学校の体育学習に真摯に取り組み、研究・実践を積み重ねていくことが重要と感じている先生方の集まりだからこそ、長年続けることができているのだと感じます。

「生涯にわたりスポーツが好きで、楽しんで取り組む人を増やすために、小学校の体育にできることは何か。多様な生涯スポーツ時代の小学校体育は、どのような『役割と姿』を持たねばならないのか。」

今回の研究大会で、愛媛大学教授 日野克博先生に指導助言をいただきながら、発表の目玉を実現するため模索してきたことは、学指導要領で重要視されている「協働的学び」と「個別最適な学び」を体育科の学習に反映させていくことにつながり、子どもたちのやる気や仲間と学習することが楽しいという実感を引き出すことにもつながるのではないかと考えます。

各県の先生方に、この度の研究大会で、提案し、共有し、協議したことが、「今後の実践に生かしてみたい」と感じていただくことができたなら、本県にとりまして誠に意義深く、主催者として、この上ない喜びであります。

鳥取大会は終わりましたが、中・四国の各県とともに、今後の小学校体育がやるべきことは何かを考え実践していく研究の始まりでもあります。今後も引き続き、研究を深めていくことができますよう、よろしく願い申し上げます。

鳥取県小学校体育研究会
会 長 近藤 剛夫

第61回中・四国小学校体育研究大会（鳥取大会）

鳥取大会におけるアンケートの記入に御協力いただきまして、ありがとうございました。
中・四国小学校体育連盟では、皆様からの御意見、御感想を生かし、実際の教育現場に役立つ研究大会を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大会主題について

- 子どもの学び、子ども同士の関わり合いを大切にしながら体育授業を組み立ていくという意向が伝わった。
- 目指す子ども像について、定義がしっかりなされていてよく分かった。大会主題に沿った授業、子どもたちの姿を見ることができた。
- 鳥取県全体で大事にしていること、取り組んできたことがよく伝わった。

公開授業及び提案授業討議について

- メリハリのある活動に加え、子どもたちが協議しながら課題解決に向かう姿が印象的だった。
- 運動量が多く、子どもたちが夢中になって動いていた。子どもたちみんなの参加が保証されていた。
- 運動の特性を生かした簡易化されたゲームで、見ている方も面白く、子どもたちも取り組みやすい内容だった。子どもの振り返りを活動の始めに紹介する姿などから、研究主題の「ともに学び」は子どもたちだけでなく、先生もともに学んでいることが伝わった。
- 授業者の思いや意図が感じられたり、オール鳥取で取り組んでいることも反映されたりして参考になった。授業討議では発言から各県の考え方を知ることができた。
- 「わたしたちの保健」を活用し、目標とする学習内容を子どもたちがしっかりと学ぶ姿があった。発問・教材の提示・情報提供など子どもの学びの状況に合わせて準備されていると感じた。
- 動きを見る視点の絞り方、ねらいへの迫り方など、「わたしたちの体育」の活用、一人一台端末の活用についても大変参考になった。

分科会（県内・県外提案発表）について

- それぞれの県の取組や考え方を知る機会になり大変有意義な時間になった。自県の研究だけでなく、他県の研究を知り、広い視野を得ることができた。
- 大会参加者から良い実践や研究が各県に広がり、よりブラッシュアップして大会にもどってきていると感じた。大きな研究大会を続ける価値を感じた。県内のみならず、中・四国で研究を引き継ぎ合うことも必要だと思う。
- 高学年の体づくり運動は、取り組みにくいイメージがあったが、先生方の提案のおかげで自分なりのイメージをもつことができた。
- 子どもたちを繋ぐICTの活用の仕方が勉強になった。小規模校同士がICTで繋がることで仲間との関わりが増えると感じた。子どもたちの思考も「友達に勝ちたい」という思いに加えて「他校の練習を参考にしてみよう」となり、より深い学びになると感じた。
- コロナ禍で中学年時にマット運動の経験が乏しいとの話があった。だからこそ、高学年の2年間の技の取り上げ方が重要だと感じた。
- 各県の取組を見聞きして、大変参考になった。個人の研究ではなく、市の32校みんなで1つの題材に取り組んでいることは、素晴らしいことだと思った。
- 児童の実態に合わせて、技能習得を目指す実践や単元の終着点を考えた実践などそれぞれ工夫されており、自分も実践してみたいと思える内容だった。
- 保健の領域では、どちらの発表も学んだことを実生活に生かすための手立てがされていて大変参考になった。また、県の実態を踏まえて、県全体共通の取組として実践されていたことも参考になった。

参加人数について

鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	合計
147	75	32	10	17	14	6	48	9	358

※中・四国役員 59名